

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月13日

協議会名： 氷見市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
加越能バス株式会社	<p>運行系統名： ひみ番屋街経由氷見市民病院</p> <p>運行区間： JR氷見駅～ひみ番屋街～氷見市民病院</p> <hr/> <p>運行系統名： ひみ番屋街</p> <p>運行区間： JR氷見駅～ひみ番屋街</p> <hr/> <p>運行系統名： 市街地循環(左回り)</p> <p>運行区間： 氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院</p> <hr/> <p>運行系統名： 市街地循環(右回り)</p> <p>運行区間： 氷見市民病院～JR氷見駅～氷見市民病院</p>	<p>1 市ホームページやパンフレット等にバスの情報を掲載し、周知を図った。</p> <p>2 利用しやすいバスとなるよう努めるため、また現状分析と今後の計画策定に役立てるため、乗降調査を実施した。</p>	<p>A 経路に隣接する橋梁の架け替え工事により発生する迂回が、当初の計画実車走行キロに反映されていなかったが、運行回数は計画通りであり、地域に対し輸送サービスを提供できた。</p>	<p>A 1 目標 1便当たりの利用者数目標値は、平日は2,000人、土日祝は5,000人。系統別では、①ひみ番屋街経由氷見市民病院は2,000人、②ひみ番屋街は6,000人、③市街地循環(左回り)は4,000人、④市街地循環(右回り)は4,000人とした。</p> <p>2 効果達成状況 1便当たりの利用者数実績値は、平日は4,100人、土日祝は10,100人。系統別では、①ひみ番屋街経由氷見市民病院は2,502人、②ひみ番屋街は8,561人、③市街地循環(左回り)は5,056人、④市街地循環(右回り)は6,040人となった。</p> <p>効果としては、高齢者等の日常生活に必要な移動手段の確保につながっているほか、市街地のうち既存路線から離れた地域の交通手段確保につながった。</p>	<p>1便当たりの利用者数は、平日・土日祝とも計画を上回っており、年間利用者数も運行開始以来安定している。</p> <p>しかしながら、人口減少が利用者数減少に直結してしまう懸念があることから、市ホームページや各種パンフレット等においてバスの周知と利用促進を徹底するとともに、引き続き利用実態の把握に努める。</p> <p>今後の計画においては、利用者の増加を目指した目標を設定するとともに、市の各種計画との整合性や連携を図っていく。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年1月13日

協議会名:	氷見市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>氷見市の人口は5.2万人(H22年国勢調査。以下同じ)であり、人口は減少傾向にある。老年人口比率は30.7%(人口51,726人、老年人口15,864人)と高齢化が進展しており、中山間地域はもとより、市街地周辺においても高齢者世帯が増加するなど、その生活支援として交通手段の確保・維持が重要な課題となっている。</p> <p>市内の公共交通網は、JR氷見駅を中心とする放射線状の路線となっており、中心市街地にある主要な公共施設及び商業施設を周遊する路線がなく、自家用車での移動が困難な高齢者及び障害者等の移動を十分にサポートできていない状況にある。</p> <p>そのため、中心市街地に点在している日常生活に必要な公共施設及び商業施設等を周遊する「市街地周遊バス(4系統)」を運行し、市街地周辺の地域住民の交通手段を確保・維持するとともに、地域間幹線系統バスをはじめとした既存の路線バスと接続することで、市内の公共交通の利便性の向上を図る。</p>